

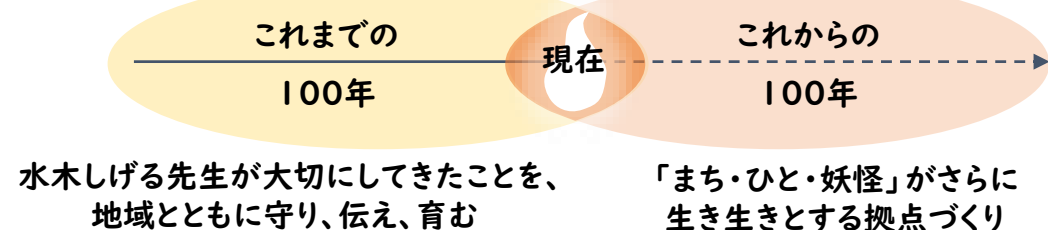
1. 基本理念（目指す施設像）

時代の節目である生誕100周年の今、
これからの100年も幸福な出会いが訪れる施設づくりに向けて

水木しげる先生が歩んだ**100年**を継承し

次の**100年**へ想いをつなげる

文化観光創造拠点



2. 基本方針

- 施設の方針** 次の100年に水木ワールドを守り伝えるために
ホンモノを扱う記念館へ施設機能を強化
- 活動の方針** 次の100年も人々に愛され続けるために
水木しげるロードと一体となる開かれた場と活動づくり
- 連携の方針** 次の100年もまちに賑わいが続くために
多様な主体を結び、発展し続ける連携づくり

3. 基本コンセプト

行き交う、つながる、混ざり合う

「境」からはじまる新しい出会い

- 古くから海と陸の「境」として物質・文化の流入基地として栄え、新しいものを受け入れる人々の気質も相まって、唯一無二のまちへと進化してきた境港の特徴を活かす。
- 人間界と霊界の「境」、実体験と創作の「境」、生と死の「境」。水木しげる先生は様々な「境」から独自の世界観を創造してきたことを感じられる施設を目指す。
- すぐ隣り合わせにある世界が行き交い、つながり、混ざり合う。今まで見えなかったものに出会える場所としての「境」を基本コンセプトとして検討する。

4. 事業活動

A【守る】
資料保管事業

貴重な原画やコレクションに加え、水木しげる先生の魅力を発信するための幅広い分野の資料を保管する。

資料保管

資料特性に応じた適切な保管環境と、専門性を有する人員体制を整え、水木しげる先生にまつわる貴重な資料を守る。

デジタルアーカイブ

収蔵資料のデジタルアーカイブを構築。数ある資料を整理・保管し、活用される取組を行う。

直筆壁画の活用

施設内に直筆された大型の壁画を保存し、新施設でも再度展示物として活用する。

B【魅せる】
展示・公開事業

「水木しげる先生」を伝える唯一の記念館として、より多角的な視点から水木しげる先生の魅力を楽しく伝える展示を計画する。

常設展示

水木しげる先生の人生をたどり、世界観や作品、生き方等から「水木しげる先生」を伝える常設展示室を整備する。

企画展示

さまざまな資料に対応する企画展示室を整備し、多彩なテーマで水木しげる先生と作品の魅力を伝える企画展示を開催する。

原画展示

原画資料等が展示可能な設備環境の展示室を整備し、貴重な資料を積極的に公開する。

屋外展示

記念館へ立ち寄りたくなる仕掛け、市内外からの誘客や話題づくりのきっかけとなるよう、フォトスポットになるような展示

C【誘う】
観光振興事業

地域の魅力を向上し、地域の経済活性に貢献するための取り組みを展開する。学校向けの平和教育・自然教育など、SDGsに資する活動も実施する。

周遊促進

周遊の一拠点として、周遊ツアーや夜間イベントへの協力、館内外での情報発信等を行い、周遊観光の促進を図る。

ショップ

ミュージアムショップのあり方を検討。オリジナル商品の開発を行い、「記念館らしさ」や「境港らしさ」を活かす工夫を施す。

広報活動

ウェブサイトの充実やSNSを活用した話題づくりを行う。

サテライト展示

みなとさかい交流館等を活用しサテライト展示等を検討する。

D【交わる】
創造・交流事業

幅広いターゲットに向けて、楽しみや学びが広がる場や活動を充実させ、より集客力を高めるための事業を展開する。

ライブラリー

膨大な水木作品や関連する書籍等の配架や、デジタルアーカイブを閲覧できる設備を整備。地域の人々が利用できる場。

各種イベント

多様な主体と連携し、多様なニーズに応えるプログラムを企画・実施する。

人材育成

事業活動の担い手となる人材を育成する。

E【結ぶ】
連携・協働事業

市内外の様々な施設・団体・企業等との結びつきを強化し、さらなる持続発展を目指す。

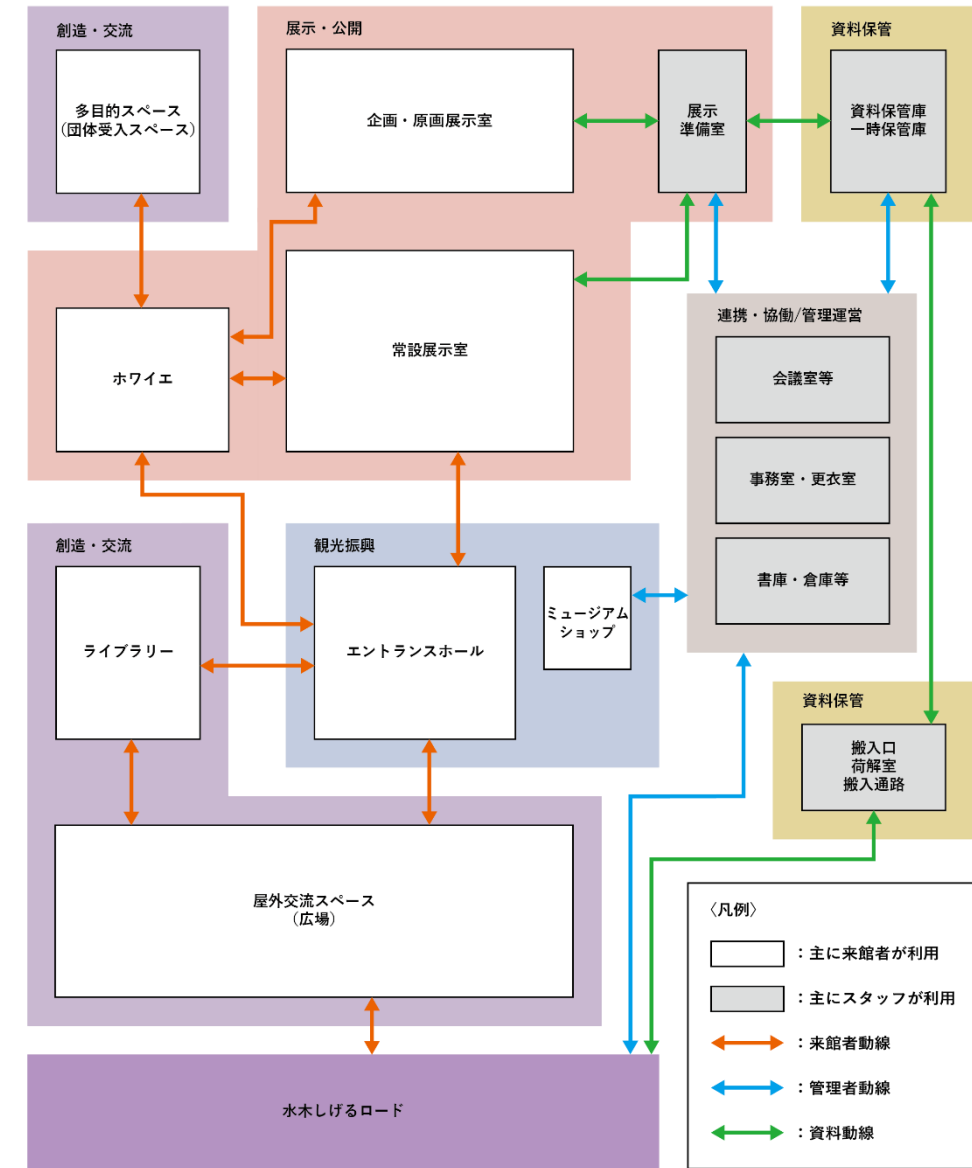
ネットワーク構築

既存のネットワークを深めるとともに、新規の協働先や連携先の開拓等を行う。

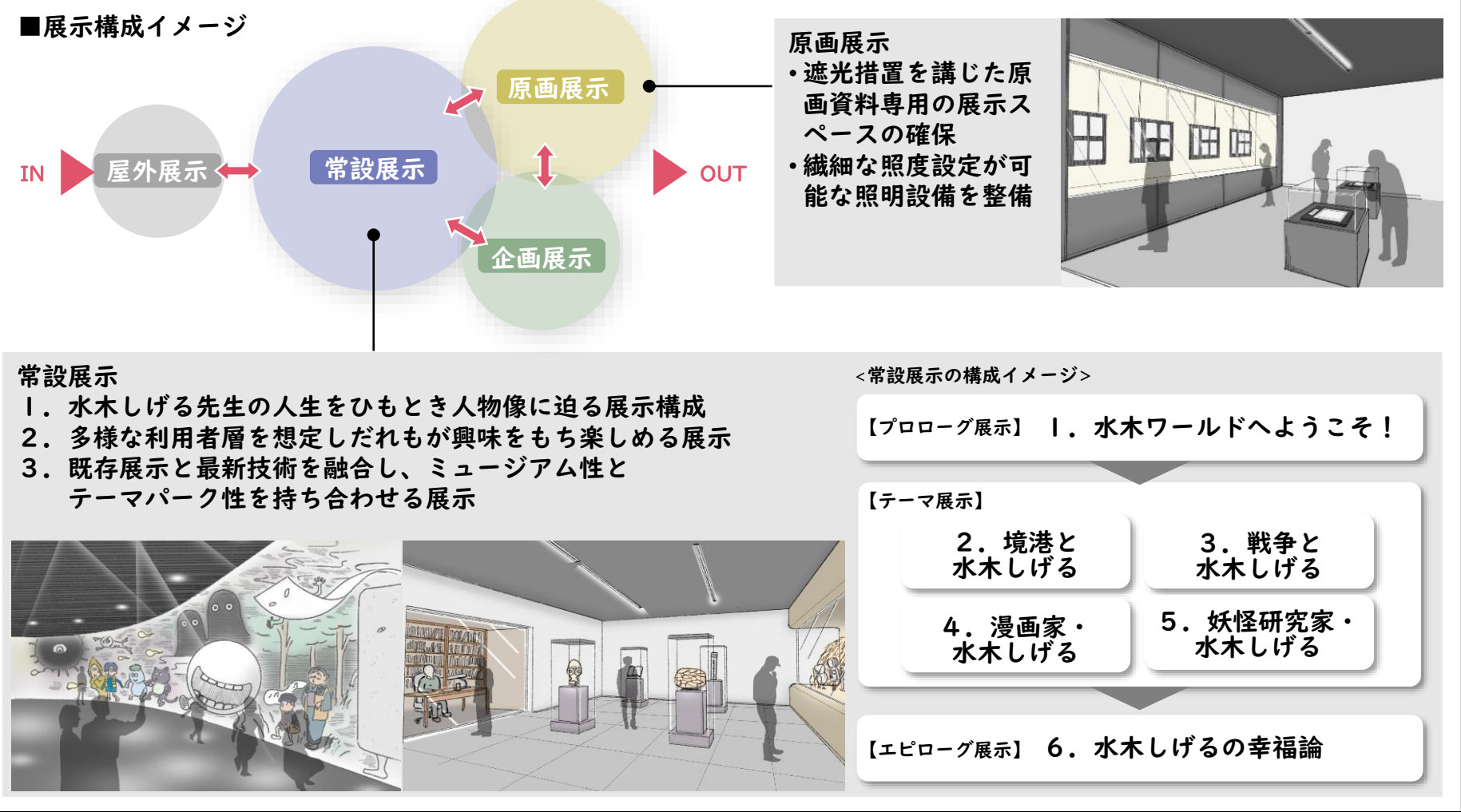
5. 施設構成

施設機能	諸室名	諸室規模
資料保管	資料保管庫・一時保管庫	150㎡
	搬入口・荷解室・搬入通路	
展示・公開	常設展示室	850㎡
	企画・原画展示室	
	ホワイエ	
	展示準備室	
観光振興	エントランスホール	100㎡
	ミュージアムショップ	
創造・交流	屋外交流スペース(広場)※面積は除く	100㎡
	ライブラリー	
	多目的スペース(団体受入スペース)	
連携・協働 ／管理運営	会議室等	150㎡
	事務室・更衣室	
	書庫・倉庫等	
その他・共有	トイレ・授乳室・ロッカー・階段・エレベーター・機械室・EPS等	250㎡
	合計	1,600㎡

<諸室連関イメージ>



6. 展示計画



7. 管理運営計画

■現状
原画等の資料や、活動を担当する専門スタッフは有していない状況にある。

■運営体制
・原画を展示するため、貴重な資料等の取り扱いに関する専門的な知識が必要
・積極的に企画展示を展開するため、水木作品に関する多角的な知識を持つ人材が必要
・持続的で発展的な利用者サービスの提供が必要

持続的な事業発展のための
充実した運営体制の構築

8. 収支計画

■施設整備費		
項目	鉄骨造	鉄筋コンクリート造
工事費（建築・展示・収蔵庫什器製作費含む）	約11億円	約12.8億円
解体撤去費	約0.4億円	
設計費等	約1.6億円	
合計(税込)	約13億円	約14.8億円

※近年の整備事例からの試算。地下の液状化対策や外構工事等の費用は含まない。建設資材の物価上昇など、今後の情勢により変動する場合がある。

■施設運営費
・年間約1億円（税込）程度の施設運営費を想定

入館料収入とともに、各種収益事業等についても検討・計画しながら安定的、持続的な活動を目指す